

『秋涼便り』

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

平成30年度の研修講座事業もあと数講座を残すのみです。9月の地震と停電による影響で2つの講座がやむなく中止せざるをえなくなりました。

さて、今年度の研修講座の特徴の1つ目に、アンケート記述に受講者の前向きな姿勢が表れていることがあげられます。幾つかあげますと、

- 「自分が悩んでいた点もあったので、とても勉強になりました。来年度もまた受講しようと思います。」(学級経営)
- 「数年前にも受講したが、小学校の先生が0名で、今回は6名もの先生方が参加して、本当の意味での連携となりました。」(幼保小の連携)
- 「i-Padを使うと、簡単にできることがわかりました。i-Padを使う覚悟ができました。」(情報機器)
- 「自分自身、外国語が苦手なので、3つくらいのレベル(初級、中級、上級)に分けてもらえるとうれしいです。」(外国語・外国語活動)
- 「間を空けて、2日日程で開講していただきたい。」(外国語・外国語活動)
- 「はじめての主幹教諭としての悩みも共有されましたし、このような機会はありませんので、貴重な経験となりました。」(教職員のカリキュラム・マネジメント)
- 「とても学びの多い講座でした。授業を見ることで、授業の流し方など大変勉強になりました。」(学習指導—授業づくり)

そして、今回、研修講座の内容を自校に戻って還流する目的で、自分の言葉でまとめ、レポートを作成して校内の先生方に広く伝えているケースがありました。(特別支援教育、外国語・外国語活動)

『センターでの個人の学びが、広く教職員に伝わっていく』という新しいセンターの学びのスタイルに発展していけると感じました。各学校でこのような還流レポート報告がありましたら、センターへ一報願います。